

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 3 区分
 【発行日】平成28年8月4日 (2016.8.4)

【公開番号】特開2015-59692(P2015-59692A)
 【公開日】平成27年3月30日 (2015.3.30)
 【年通号数】公開・登録公報2015-021
 【出願番号】特願2013-193388(P2013-193388)
 【国際特許分類】

F 2 4 F 11/02 (2006.01)

【 F I 】

F 2 4 F 11/02 1 0 2 L

F 2 4 F 11/02 1 0 2 J

F 2 4 F 11/02 1 0 2 M

【手続補正書】

【提出日】平成28年6月20日 (2016.6.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 2 】

従来の単 1 コイルによる減湿冷却の空調システムでは、湿分を満足させる場合は冷えすぎ、顕熱のみ満足させた場合は、湿分処理が行えず不快であるのが普通であり、これを図 1 の空気線図で説明すると、設計絶対湿度（一点鎖線）まで湿分を除去しようとする空調機の吹出し空気 SA を 1.4 程度まで冷やさなければならない。このため 1.6 程度の吹出空冷温度に調整しようとする、再熱しなければならず、省エネにはならない。

また、単 1 コイルの空調システムで省エネで湿度と温度を調整しようとする、例えば、特許文献 1 に示すように、複雑なシステムを必要とする問題点があった。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

これら外気ダンパ 1.1.1、第 1 二方弁 (MV 1) 6.1、第 2 二方弁 (MV 2) 6.2、ファン 4 等は空調制御装置 9 によって制御されるが、空調制御装置 9 には第 2 チャンバー 7.4 の還気 RA 2.2 の流入口 7.4.2 の近傍に温湿度検出器 9.1 及びファン 4 の給気口 4.3 の近傍に設けられ温湿度検出器 9.2 が配置され、これらの検出値によって適切な温度と湿度の空気調整された空気が供給される。

以上、夏場の冷房時を説明したが、冬場の暖房時には、第 1 コイル 3.1 と第 2 コイル 3.2 とに高温暖水を入り配管 3.1.1 及び中間配管 3.1.3 に導入し、冬場は湿度が足りなくなる場合も生じるので、冷房時とは逆に加湿器 8 の加湿電磁弁 8.2 で制御しながら、第 2 チャンバー 7.4 側で加湿した適度の温度及び湿度に調整する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 4 】

